

令和5年度 第2回中部地方整備局ダム事業費等監理委員会
及び部会（新丸山ダム建設事業部会）

議事要旨

日 付：令和6年2月2日（金）11：20～17：00
場 所：新丸山ダム建設現場、八百津町ファミリーセンター2階研修室3・4
出席者：松尾委員長、小川委員、國枝委員、高木委員、豊田委員
新丸山ダム建設事業部会構成員

- 次 第： 1. 開会
2. 挨拶
3. ダム事業費等監理委員会（新丸山ダム建設事業現地視察）
4. 議事
1) ダム事業費等監理部会
（1）新丸山ダム建設事業部会

1) ダム事業費等監理部会

いただいた意見：

【新丸山ダム建設事業部会】

- 社会情勢に変化が生じており、また自然を相手にしている事業であるため現場条件に変化が生じることはやむを得ないが、コストの縮減や効果の早期発現を含めて事業計画の精査を進めていくこと。なお、将来の社会情勢の変化も見据え、十分な精査をされたい。
- コスト縮減を図ることで安全対策が疎かにならないよう精査されたい。
- 新丸山ダム建設事業が重要なインフラ資源となるように、地元と協力して水源地域と連携し広く周知されたい。
- 建設 DX の取り組みについては、データ等を蓄積し完成後のダム管理やその他のダム事業に役立てられるようにされたい。
- 低炭素型コンクリート等のカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みについては、幅広く周知されるよう努められたい。

主な質疑

新丸山ダム建設事業部会

○資料（事業を巡る状況の変化）の4ページに記載がある「コスト縮減等の工夫も含め、現行基本計画の精査を行っていく。」については、事業の工期や総事業費を再検討するということにつながっていくのか。

⇒社会情勢の変化や現場条件の変化も踏まえ、コスト縮減の意識をもちながら精査し、事業の期間や費用の見直しを考えている。

○資料（事業を巡る状況の変化）の4ページにあるとおり、資材費も労務単価も令和5年になり急速に上がっているが、世の中の状況がそうであるため、この先も上がっていくことが懸念される。そのため、こうしたコストが加算された時に今後の予算をどこかのタイミングで見直さなければいけないが、いつまでに精査が必要と考えているのか。

⇒本委員会の他に5年に一度、事業再評価を実施しており、新丸山ダム建設事業については令和元年度に再評価を行っている。本委員会でもご説明してきたが令和元年度以降に、働き方改革が進められたこと、地すべり対策等の調査が進捗したこと、ダム本体工事に着工し、現場の進捗状況などが見えてきたことが明らかとなってきたところである。次回の再評価が一つのタイミングと考えており、早急に精査を進めていきたい。

○資料（事業を巡る状況の変化）の5ページでは、作業時間が減るということは工事期間を先へ延ばすしかないという要素になってくるが、工事期間を先に延ばすような影響を与える要素が他にあって、そういったものが積み重なっていくという可能性はあるのか。

⇒新丸山ダムの建設については、洪水調節を伴う丸山ダムの下流で施工を行うため、出水期と呼ばれる6月から9月までの間と台風がくる時期にどれだけ順調に施工を進められるかが、工事工程の課題であると認識している。

○地域貢献の時にダムをつくる側から予算をつけていく意向はあるのか。

⇒ダム事業に直接関連しないものに予算を投じることはないが、仮設備等の跡地利用も含め、地元自治体に意見を聞きながら、事業の中で地域貢献に資する工夫は積極的にしていきたい。

○社会情勢に変化が生じており、事業費や工期については、資料（事業を巡る状況の変化）の4,5ページで精査されていると思うが、その一方で工期短縮やコスト縮減についても、新しい知見を取り入れ、早期完成を図ることと、不断のコスト縮減に最大限努めていきたい。また、引き続き地元の意向を尊重し、水源地域の整備と振興が着実に進められるよう、より一層ご協力していただきたい。

○資料（事業を巡る状況の変化）の6ページにある自然由来の重金属への対応で、口杣沢建設発生土受入地で要対策土を適切に対処する必要性が生じたとあるが、その管理が重要になってくる。どんな雨が降るかはわからないが、熱海であったようなことが起きないように万全を期して管理をしていただきたい。

○資料（建設DX）の建設DXで人件費を縮減していくと思うが、DX化も設備投資が必要と考えられる。一般論でよいが、人件費の削減効果とDXにかかる費用が増す部分をどのように考えているのか。

⇒ダムの建設現場は山間部が多いため、通信環境が整っていない場合には、設備投資が必要と考えている。一方、建設DXによって省人化が図られるので、結果的にはコスト縮減につながるよう目指している。建設機械の無人化や自律化がどのタイミングで全面的

に施工に反映できるかがポイントであると考えている。今後予定しているコンクリート打設開始以降に、安全や品質の確認を行いつつ、段階的に無人化・自律化に移っていく予定であり、スムーズに移行できるようしっかり準備を進めたい。

○今回の建設DXの取り組みは、費用の方では効果があると考えられるが、工事期間に対しては延びるのを防ぐなどの効果が期待出来るのか。

⇒工事現場近隣に地域の方々がお住まいのため、現在も生活環境への影響に配慮して施工を行っており、施工時間の条件としては厳しいと考えている。しかし、新丸山ダムは丸山ダムのすぐ下流側で工事をするので、洪水時などの万が一の時は人や重機は退避する必要があるため、自動化が進めば重機の撤収だけですむこととなる。最低でも人の命を守ることができるので安全管理に対する効果が期待出来ると考えている。

以 上